

冬にオススメ!



日本の スキーの始まり

<献立例>
・スキー汁



<「スキーの話」あらすじ>

1911年、今から100年以上前、新潟県上越市(高田)にある金谷山^{かなやさん}で、日本で初めて本格的なスキー指導が行われました。スキーの指導者は、オーストリア・ハンガリー帝国の軍人テオドール・エドラー・フォン・レルヒさんです。レルヒさんは、長岡外史率いる軍隊にスキー指導を行いました。雪が多く、思うように軍隊の練習ができませんでしたが、レルヒさんにスキーの技術を教えてもらったおかげで、練習がしやすくなりました。レルヒさんが教えてくれた技術は、一本の長い杖を持ってバランスを取りながら滑る「一本杖スキー」でした。

レルヒさんがスキー指導を行った際、提供された汁物が「スキー汁」です。スキーで冷えた体を温め、力を付けるために食べたといわれています。現在では、スキー汁に入っている具の切り方それぞれに意味を込めています。だいこんとにんじんは「スキー板」(そのために短冊切りにする)、豆腐は「雪」や「あられ」、しいたけは「みの」、ねぎは「かんじき」、つきこんは「スキーのシュプール」です。

その後、日本でスキーの技術が研究されました。その技術が多くの人に受け入れられ、スキーが全国へと広がりました。